



県央かわら版

第 12 号

平成25年9月1日発行

発行者

一般社団法人県央研究所



微生物でレアメタル回収

芝浦工業大・山下教授ら

微生物を使って工業廃水に含まれるレアメタルの一つ「セレン」回収する技術を、芝浦工業大の山下光雄教授らが開発した。集めたセレンは資源として利用できるため、事業化が期待される。

セレンは銅鉱石などに少量含まれるレアメタル。太陽パネルの原料や、ガラスの着色・脱色剤として使われる。水に溶けると毒性があり、摂取しすぎると神経障害などを引き起こす。

山下教授らは、セレンを精錬する工場近くの汚泥から水に溶けたセレン酸や亜セレン酸をセレンに変える微生物を発見。工業廃水の中で培養したところ、78.8%のセレンを回収することができた。

工場では廃水中のセレンの濃度を下げるため、化学薬品を使っているが、この微生物を活用することで、低コストで廃水からセレンを除去できる。集めたセレンは資源としても利用できるという。

レアメタルを微生物で回収する技術は大阪府立大などの研究チームも開発している。山下教授らは、レアメタルの「ネオジム」と「ジスフロシウム」についても回収できる別の微生物を見つけたという。「微生物で環境に優しくレアメタルを集められる。このような微生物を更に見つけていきたい」と話している。

朝日新聞デジタル 8月1日配信より

浜名湖産 ノコギリガザミから貝毒

出荷自粛を要請

静岡県は8月6日、浜名湖で採取されたノコギリガザミ(ドウマンガニ)のカニみそから、国の規制を上回るまひ性貝毒を検出したと発表した。

同県産ノコギリガザミで、規制値を超えるまひ性貝毒が検出されたのは初めて。同県水産振興課によると、直ちに健康被害が出る高い数値ではないが、大量に摂取すると、口がしびれるなどの症状が出る恐れもあるという。

同県は水揚げした浜名湖産に対し、生態が似たガザミ、インガニを含めて漁や出荷の自粛を要請した。同漁協は市場で8月6日からカニ類の取り扱いをやめ、出荷先に販売禁止を求めている。規制値を超えたノコギリガザミは、7月23日に浜名湖東側の白州地域で採取された。

県が8月6日に調べ、カニみそから規制値の約1.6倍となるまひ性貝毒の検出を確認した。県はカニ類の検査回数を週1回に増やし、3回連続で規制値未満になるまで、同漁協に自主規制を求める。

ノコギリガザミは地元を中心に高級食材として知られる。浜名湖で年間4トンの水揚げがある。

静岡新聞 8月7日配信より



11月19日は「トイレの日」 国連が決議

国連総会は7月24日、途上国で深刻な衛生問題への取り組みを強化するため、11月19日を「世界トイレの日」とする決議案を全会一致で採択した。

決議は、トイレのない場所での排泄は「公衆衛生に極めて害がある」として、加盟国や国連機関に対し、貧困層への衛生施設提供を急ぐよう求めている。

国連によると、世界で約25億人がトイレなど衛生施設にアクセスがなく、このうち11億人が屋外での排泄を余儀なくされている。下痢が原因の病気で1日に約2000人の子どもが死亡し、学校にトイレがないため通学を断念する女性も多いという。

決議は、シンガポールの民間団体「世界トイレ機関」が行っているトイレ普及活動を後押しするもの。11月19日は同団体の設立日。

読売新聞オンライン7月26日配信より

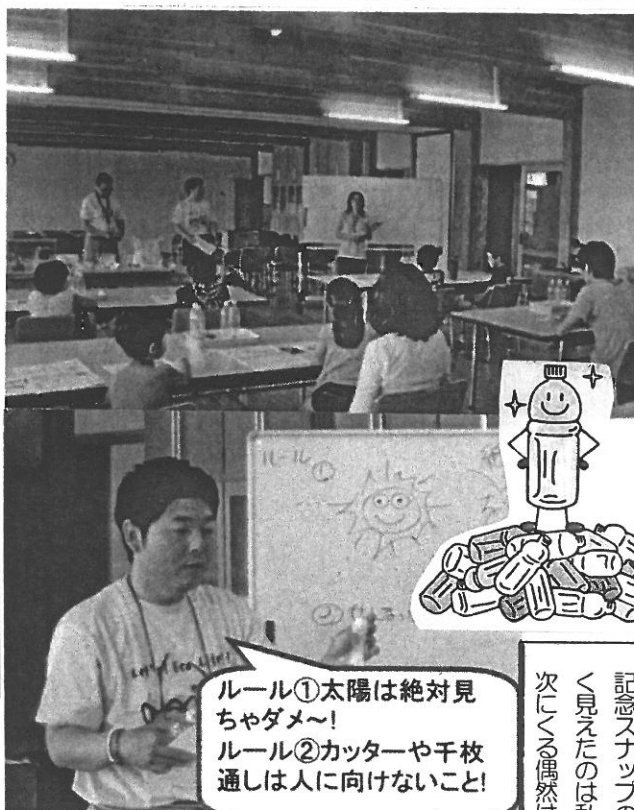
手足口病が全国で流行 11年に次ぐペース

口の中や手足に小さな発疹が出るウィルス性感染症「手足口病」が、乳幼児の間で全国的に流行している。国立感染症研究所の8月6日までのまとめでは、全国約3千の小児科定点医療機関での累計患者数が年間13万人を超えた。厚生労働省は「感染を広げないように手洗いなどの予防策が重要だ」と注意喚起している。

最新の7月22～28日の週の速報データでは、全国で2万7773人の患者の報告があり、今年の累計が13万3802人となった。この週の1機関当たりの患者数は8.83人で、過去10年で最大の流行2011年に次ぐ流行となった。

共同通信 8月6日配信より

県央研究所 イベントレポート ペットボトルで「マイ顕微鏡」を作ろう



夏休みに突入したばかりの7月28日小学生を対象にした顕微鏡作りと観察体験が三糸市環境啓発施設「かんきょう庵」で行われました。

弊所から茨木理事が講師となり、小学校低学年を中心に10人の子供たちと保護者の方々と一緒にペットボトルとガラスビーズを使った「マイ顕微鏡」作りを行いました。

ペットボトルのキャップをクルクル回しピントを合わせると、水草の細胞壁や花粉の二粒一粒がはつきり見えてきました。

「けんきょう庵をつくるのがたのしかったです」(小1)

「親子で理科の実験をしているようでした」(保護者)

と参加の皆さんから喜んでいただきました。

三糸市環境啓発施設「かんきょう庵」と 「コラボレーション」企画を開催・実施

全国を駆け巡る研究所の「働くくるま」達、この中の一台日産ティータ・フレイオ号(通称ピケちゃん)が、8月8日に七十七七kmになりました。

末広りの八が並ぶこの日にラッキーナンバーの七が並ぶという偶然!この車、きつと「何か」を持っているのかも・・・?

弊所の車たちは白色。白い色は汚れが目立ちます。だからこそ、お客さまの所へお伺いする車たちは常に清潔を保つため清掃と手入れはしっかりと行います。

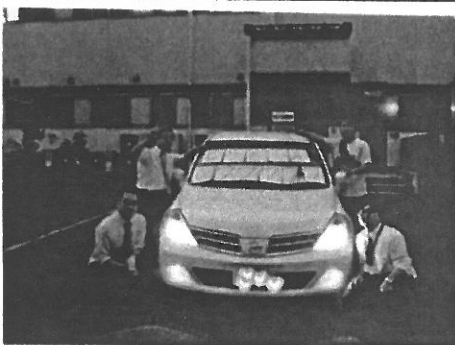
この日の夕方、帰所したティータ号はいつもより念入りに洗車と車内清掃を済ませ、担当スタッフによるささやかな記念セレモニーを執り行いました。

「ありがたね、ピケちゃん、これからもよろしくね」

記念スナップのティータ号を見ることがいつもより頼もしく見えたのは私だけでしょうか?

次にくる偶然はいつ?

社有車両ティータ号 偶然?ー奇跡?ー 八月八日に走行77,777kmに到達



愛車は愛社だ

ルール①太陽は絶対見ちゃダメー!
ルール②カッターや千枚通しは人に向けないこと!

皆さまからの情報・ご意見を
お待ちしております

県央かわら版では食品・環境等を中心に情報を発信しております。取り上げていただきたいものや、旬な話題等がありましたら、お気軽にご連絡ください。

一般社団法人県央研究所 県央かわら版事務局

電話 (0256) 46 8311

FAX (0256) 46 8310

E-Mail: info@kenchi-labo.or.jp